



発行所 株式会社盛岡タイムス社 <http://morioka-times.com>
〒020-0015 盛岡市本町通3丁目9番33号 盛岡タイムス 検索
電話(代表)019-653-3111 ファクス019-622-5119

この記事・写真は盛岡タイムス社の許諾を得て
転載しています。

岩手ホスピスの会

がん患者支援に理解

タオル帽子製作 盛岡二高で講習会

岩手ホスピスの会(川守田裕司代表)は、がん患者のための14日、盛岡市上ノ橋町でタオル帽子製作講習会を開催した。新型コロナウイルスの盛岡二高(小原真人)を聞いた。新型コロナウイルスの盛岡二高(小原真人)を聞いた。新型コロナウイルスの盛岡二高(小原真人)を聞いた。

指導を受けながらタオル帽子を手縫いし、がん患者支援への理解を深めた。タオル帽子は、抗がん剤の副作用で脱毛に苦しむ患者のために考案された。同会のタオル帽子配布活動は2008年6月に開始し、

これまで10万2千個を全国のがん診療連携拠点病院に発送した。同校での製作講習会は4年目。裁断済みのタオルが用意され、同会のタオル帽子作りボランティアらが指導した。生徒らは針と糸の扱いに苦戦する場面もあったが、徐々に慣れ、互いに教え合いながら、一人一つのタオル帽子を完成させた。2年の鎌田雅さん、赤澤菜穂さん、山内乃瑛留さんは、ともに製作に初挑戦。鎌田さんは「祖母が白血病で同じような帽子をかぶっていたので、必要としている人への支援に携われて良かった」と振り返る。赤澤さんは「簡単にタオルから帽子にできてすごい。ボランティアという形で帽子を届けることができうれしい」と実感。山内さんは「自分が作った帽



協力してタオル帽子作りに取り組む生徒たち

子が困っている人の役に立ってほしい。多くの人にこうした活動に

参加してほしいと思ふ。指導に当たった同会の吉島美樹子事務局長(60)は「新型コロナウイルス禍でも治療を続ける人をサポートしていきたくて思う。高校も、制限のある中で開催してくれてありがたい」と話す。「がんは2人に1

人がかかると言われ、皆さんもこれからのいろいろな場面で出合ふと思う。タオル帽子作りを通してそうした背景にも触れてほしい」と期待を込めた。生徒らによるタオル帽子は、クリスマスに合わせて盛岡市内の病院に届けられる。